

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：一般検査研究班 提出日：令和 3 年 7 月 18 日 報告者：平田 基裕

行事種別	基礎講座	行事番号	210001633	
開催日	令和 3 年 7 月 10 日 (日)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所	WEB ライブ配信			
テーマ	日当直で困らない尿沈渣の基礎 (血球・上皮編)			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	医療法人青山病院 平田基裕 技師			
講師	1. 赤血球・白血球の見方 名古屋掖済会病院 杉原 幸子 2. 上皮細胞の見方 JA 愛知厚生連稲沢厚生病院 蜂須賀大輔 3. ケーススタディ 藤田医科大学病院 長嶋 和子			
内容	<p>1. 赤血球・白血球の見方</p> <p>赤血球について一般的な大きさ、形、色の説明があり、浸透圧による変化とその仕組みについての解説があった。尿沈渣中の赤血球は、糸球体型赤血球と非糸球体型赤血球に分けられるが、糸球体型赤血球が変形する仕組みを図を用いて詳細に解説してもらった。</p> <p>糸球体から出血した赤血球は糸球体を通過する際に物理的刺激を受け変形し、多くは元の形態に戻るが、一部は壊れて溶血してしまう。壊れなかった赤血球は近位尿細管からヘンレの係蹄、遠位尿細管、集合管を通る際の浸透圧の変化により様々な形に変形すると解説があった。また形態についての多くの写真を示し分かり易く解説してもらった。</p> <p>2. 上皮細胞の見方</p> <p>総論として腎尿路系の解剖とそれぞれの部位に存在する細胞の解説があり、その後各論として尿細管上皮、尿路上皮、円柱上皮、扁平上皮と尿路に沿って解説してもらった。</p> <p>それぞれの細胞は存在した部位により形態が違うが、それらについても写真や図を用いて詳細に解説していただいた。変性細胞についても形態的特徴、細胞の由来、臨床的意義について解説していただいた。</p> <p>異形細胞について、異形細胞出現時の対応、一般検査室として確認作業や報告など、行うべきことについて教えていただいた。また細胞由来別に症例を用いて、詳細に解説していただいた。</p> <p>3. ケーススタディ</p> <p>はじめに本日解説された成分について、○×のクイズ形式で確認を行った。その際に、前の講義の演者とは違った切り口で解説していただき、参加者からはいろいろな考え方</p>			

	<p>を聞いて良い勉強になったと思う。</p> <p>ケーススタディではBK ウイルス腎症と急性腎症が示され、それぞれ日常検査では見落としてしまうような細胞や、細胞の出現様式について解説があった。どちらの症例も尿沈渣で見落としてしまうと発見が遅れる可能性があり、患者情報や他の検査データを見ながら疾患について考え、重要な成分を見落とさないように注意するといったことを教えていただいた。</p> <p>どの講義も大変有意義であり、参加者の今後の仕事に役立つと思われました。</p>
参加者	総数：参加人数 89 名（愛臨技会員 65 名、他県会員 24 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）
共催、後援など	なし

2019.12.7